

第3号 4/6
50回

ボリューム通信

京都文理二三研究会

1. 60年代左翼反対派的思想、戦略一戦術、及び運動、組織を揚棄し、国内外国際革命戦線に勝利する地下労働者党建設へ向けて前進しよう。
2. 大衆路線と軍事路線を堅持し、武装紙を支える鉄の团结を勝ち取ろう。
3. 革命斗争の始端の中で、自己をプロレタリア革命戦士へと鍛えあげよう。

全員運動の成果を踏み固め、ボリューム派の革命的斗争を構築しよう！

—レーニンの学生運動論—

(レーニン『学生運動と今日の政治情勢』1908)

「今日の学生が『アカデミー』(大学生)から『ポリテーク』(政治家)に力わるためには、ニューアカデミーでは、あきらかにまだたりない。新しいは堅に完全な革命訓練を行ふところに止まらずに、黒百人組的曹長たちのさういの鞭を学生たちにかけさせしむることが必要である。……プロレタリアートは特にせむなし。彼等は親組合や合法団体では、大學の内部や代議院選の演説では、しばしばヨーロッパ民主主義に演説の先ををひくこととなる。だが、大衆の眞剣な直撃は、革命的口舌では、彼等はけがして先ををひむまいなし。またこのうちの多くは、この三事が規定するすべての条件は、いかれのうちのなかのどおりとよく、またたやすく充満しない。けれどもこれららの条件は、たゞ成長しつつある。小さな遊園地の小豆から始まりでも、偉大な発端である。なぜなら、そのあとには、一きりでなければならないが、ある、あるでなければあざてば一貫しなかつまぬあらうからである。」

一

次

17
18
19

1

卷一
草書
論述

論

第二章 全其門戸アーチ上にて ——今日の全其門戸活

1

卷之三

十一

ウイナの田舎の
生地を仕しメル

H
—

88年春から89年夏の秋にかけて全国の学園を席捲した全共斗運動は、日本の学生運動・階級斗争史上、世界の学生運動・階級斗争史上に於ても、未嘗有の規模を持つた事例であった。

万の学生大衆（その政治的
波及から言えば、労働者、
高校生、市民までも）を一
般年ぐる度つて政治生活と
ひきびりこみ、且つ信じら
れまい程の豊富な教訓をさ
くべに与えてくれた。例えば
金井ヨ進動は、そのラジオ
カルで故に、「左翼」の名
前をかぶつた連中の素顔を
白田の下へさらけだして、
れだ。

日本の「左翼」インテリ
どもが、自法マルクス主義
の土壤(?)咲いた醜惡な徒花

たる事を、
代々木「共産党」・尾吉
が、大学当局・國家権力と
一体になつたヌルニヨア森
の無条件賛美者たる事を
として、「新左翼」であ
つたはずの、革マル派が、
極めて反動的でシヨウガ
イキ的、社民的組織たる事
を、
現在、全国の学園では、
全共斗ネットワークが襲つ
てゐる。
大学当局と警察との結局
、機動隊、ガードマンの常
駐、検問体制、政治活動の
禁止措置、レッジ・ペーパー
、秩序派学生と民青による
黄色子口、公然たる民族派
学生運動の登場等々と、
そして、又、バリケード
が撤去され、69年秋の攻防
で戦列から去りつつある。
我々木とて、最も悲しむ
べきであり、最も重視しな
ければならない問題は、こ
れの全共斗活動家が最も急進
的に引ひをから「全共斗運
動とは何だったのか」とい
う氣問を抱いて、戦列から
去つて行くこの傾向である。
全共斗運動の形成と終焉
は、バリケードの存在の有
無によって計られてはさら
ない。
だが、バリケードが存在
するか、否かは、該釋に、
権力との関係だけによつ
て決定されるものではなく
いのだ。
我々が、時方の中で、重
視し、回答を与えるければ
ならない問題は、単純であ
るが一旦つ、全共斗運動
の最も本質的問題だが一
回、全共斗運動はその「
自己否定」とか「破壊の
思想」とか様々に語られた
のが、その経験的直接性に
併せており、自分の実践が
「運動の未来を代表する」
「現在の運動」として、即
ちアロレタリヤ革角過程、
歴史過程の統合性の一契機

としてお似合いやうでござ
り申ゆるのゆえ。

この事は、全日本運動後
の今日、更に拡大され、更
に多様な形態で、活動家の
中の思想的混亂として現わ
れており、当然興味上の混
乱とも招来せつてゐる。(一)
第一章で、この問題につい
て検討する。

全力闘運動の革命的戰果を

今日、ちつと多くの、もつと優れたヨーロッタリア革命戦士を、このスローカンニダ、帝國に於て、新しい闘いを組もうとする我々の任務を明らかにするそれでなければならない。

「革命は密集した反革命を生みだす」といひて前進する」といつマニクスの確信にみちた書葉は、又、全般闘運動のそれともなうればならない。

聖に、且つ躰通に全其闘争
りを行なう事によつて、全
其闘運動家をわざわざ鍛え
あげてくれた。専生大衆を
マルシヨア独裁社会の本性
について教育し、信念を持
つた多くのアロレタリア革
命戦士を生み出してくれた

第一回 一二一の學生運

卷之二

1、金井洋後の學生運動の政治路線の混乱（それは必然的に運動の混迷を招く）をせいでいる。この性格を鮮明にし、新しい學生は產生義者の任務——したがって代の運動至上主義的學生運動論とは違つた——を、代わらしつかりと把み取る意識には、レーニンの學生運動論は、現在の我々にとつても非常に教訓的であると理解できる。

論文を多くに残していくが、我々は、次の二つの政治論文と革命的青年の任務（一九〇三年、全集7巻）、学生運動と今日の政治情勢（一九〇八年、全集15巻）を中心と考察してみよう。

2、革命的青年の任務（一九〇三）について、

レーニンは革命的學生の新聞（ストラホエント）編集部の「革命的感情だけではなく、學生の思想的統合を」くりだすことはできないし、「この目的のために、いかなるこれらの社会主義世界觀にしなら「明確で全一致」という主張に贊意を表して、工友・工人の沿流的な

会的見解の点で非常に種々な意見がみなタルーフに存在しておあり、また専任せざるをえない。だなら世界観の全一性と明確性を要求するところ、これらのタルーフの一部を不可避的におしのけることになり、したがつて心をあわせた活動のなまわりに不和感呼びおこし、したがつて共同の政治的攻撃力をよりやめることになる。「一般的な政治運動との連帶を宣言し、革命的陣営内における表面的反目をさげく度外視せよ」と、レーニンは、次の様に口説する。

アーティストの現れは、學生に
アーティストリブンツイアのな
くでセヒヒも歎感な部分で
あるならであり、また、イ
ンテリケニツィアがインテ
リブンツイアと呼ばれるの
には、彼らがセヒヒとセ意識
的に、だれよりも決定的に
だれよりも正確に、社会全
体における階級社會と政治
的ブルーアル派との發展を
反響し表現する点にあるな
りである。」（我々は、
一二、全兵斗運動後、した
むる年代初頭に民族派學生
運動が公然と一政治潮流と
して登場した事を想起し、
その現在及び将来にわた
る階級關係全体との関連で
戦後日本における歴史的意
味を認識しなければなりな

う。
エス・エルの主張は、
である。

の政治的タルト、又な存任しこいる。——」「このタルトは偶然的なもので

「革命主義」に反讐を行な

第三回
社会民主主義者の六つ

1. The first section of the document contains a single sentence: "The following is a list of the names of the members of the Board of Directors of the Company." This sentence is preceded by a short horizontal line.

2. The second section of the document lists the names of the Board of Directors, each name followed by a short horizontal line. The names listed are: "John Doe", "Jane Smith", "Robert Johnson", "Sarah Williams", "Michael Brown", "Emily Green", "David White", "Laura Lee", "Christopher Grey", and "Sarah Blue".

3. The third section of the document contains a single sentence: "The Board of Directors of the Company has decided to increase the number of members from ten to twelve." This sentence is preceded by a short horizontal line.

4. The fourth section of the document lists the names of the new members, each name followed by a short horizontal line. The names listed are: "James Black", "Sarah White", "David Grey", "Sarah Blue", "Sarah Green", "Sarah Lee", "Sarah Grey", "Sarah White", "Sarah Lee", "Sarah Grey", and "Sarah White".

5. The fifth section of the document contains a single sentence: "The Board of Directors of the Company has decided to increase the number of members from twelve to fifteen." This sentence is preceded by a short horizontal line.

6. The sixth section of the document lists the names of the new members, each name followed by a short horizontal line. The names listed are: "Sarah Grey", "Sarah White", "Sarah Lee", "Sarah Grey", "Sarah White", "Sarah Lee", "Sarah Grey", "Sarah White", "Sarah Lee", "Sarah Grey", and "Sarah White".

the first time in the history of the world, the people of the United States have been called upon to decide whether they will submit to the law of force, or the law of the Constitution. We have now an opportunity unprecedented in the history of man, to determine whether we are to be a nation of cowards and slaves, or a nation of men and freeholders. The time has come when we must either submit to the law of force, and become a nation of slaves, or assert our rights, and become a nation of freeholders. The time has come when we must either submit to the law of force, and become a nation of slaves, or assert our rights, and become a nation of freeholders.

3. 学生運動と今日の政治情勢（一九〇八年十月）

この論文は、一九〇五年革命後のテルミドール期、ストルイゼンの政治的反動等園に於ては、一九〇五年革命時、東洋から立ち立った「學生自治」への攻撃といつ局面で、孰第され、學園斗争と政治斗争の關係、反動期に於ける兩者の關係に対するレーニンの見解を題約して二三語。

一九〇八年、反動期にモハマリキ、ムガヌ等の運動が起つた。（學園運動のレーニンの主義については既に述べた。）

或の社会民主主義的學生は、この學生自治要求等の「原始的な學園斗争の古い諸形態」に於いて次の様に

「われわれは、學生運動とは一般的な政治行動と歩調をそろえたものだと考へてゐる。だつて、われわれは、學園的行動には反対を表明する。」と。
「——のそれへの論評は、——である。

「——いういづ論説は根本的にまちがつてゐる。四口レタリアートと歩調をそろえた學生の政治行動をめぐらなければならぬ、うんぬんといふ革命的口号——は、全員斗志動象の最近の一例の傾向や、中核派の日和見主義を色濃化するたとのの三足立場を想起せよ。——（讀者）は、——では、ますます広範で、全面的で、戦略的な煽動をおこなう生んだ指針なら、いろいろな運動形態のいろいろな段階に機械的にあこはめらせる死んだドラマになつてゐるのである。」

「學園運動が政治運動をひくめるか、あるいはそれを細分するか、あるいは政治運動を遠ざけるか、するような条件もありうる。」
「そのどきには、社会民主主義的學生のタルードは、このぶつた運動に反対する義務があるう。」
「けれども、現在の當初的は政治的諸条件は、これとはちがつてゐる。學園運動は、すでに廻り自治に多少とも慣れた學生青年にねじまゆる新しい文部省の運動の始まりをあらわしてゐるのである。しかもこの運動は、現江、文部省のどの他の形態が存在しない情勢のなかで、広範な工業などをば依然として黙々と、じつと、ゆづくりと革命の三ヶ年の経験を消化している頗る静穏勢のなかで、はじまつてゐるのである。」

なくてレーニンは、学生社会民主々義者の任務を次のように与える。

「ヨロコイの抗議者大衆にこの紛争の客観的意義を説明し、それを意識的に政治的紛争にするよう努めし、学生の社会民主々義的タルト所の運動活動を十倍にすること」であり、また、彼らは三ヶ月の歴史ならの革命的結論を身につけ、新たな革命的斗争の不可避性を理解し、專制の打倒と、憲法創定議会の召集といつ我々の古い「けれどもいまなおまことに現代的」とスローほんねにたび民主々義派の若い世代の討議の対象とせり、これらの世代の政治的結論の試金石となるような方向へ、この運動活動全体をむけることである。」

4、レーニンの學生運動論の雪約、

④革命的青年の任務」と、

弱いロシア」との階級分離の不充分性、多様性に規定された。ロシアで「ナリヤー」の政治的分解の未熟という歴史的現実と、階級規定と階級意識、即ち、「階級区分」と「政治的暴力」の分けりの照應するは、「ただ政治闘争によつてのみ到達するのであつごそ」はしばしば長い、頑強な、幾年、幾十年をもつてはならぬる闘争であることをいろいろな政治的危機となつて闘のように発現し、あるときは立ち消えの一時的に停止するののように見える一の結果である。「」という指摘をもつて、専生の「六タルームへの区分は、ロシア社会の階級区分に照応しない」などといふ、単純な階級底還元論者に対する反駁

に新風たるものにしようと努力すること」。

政治的訓練を与える事が可能な現実的基礎があると考

に対しては、我々は、次の一
様に忠告しておこうねばならぬ。

一として設けてある。

又現在の全日本活動家の思想的混亂に真剣に答える事

右般の學生大衆に政治的訓
練を与えるといふの限りに
於て、自治会組織は、不
ニシエヌイエ派の革命的學
生運動の為に、徹底的に批
判されなければならぬ。

「君達のスローガンは、全
兵闘のスローガンとしても
適切でなく、又現実的に
は、學生をアーリギヨア思想
の影響の下に放置し、従つ
て、民族派學生運動のはじ
めの基礎を形成し、アーリ
ギヨア民主主義の物神崇拝者
一員養や、日學同の學生大
衆に対する影響力を拡大す

以来、東方に於ては、7月
6日北病棟移転阻止闘争を
契機として、地震研闘争、
臨職闘争等、大學職員・教
勵者の闘いが大きく前進し
ている。だが、学生活動家
としては、労働者の闘いに
即応する事ができない学生
戦線の弱さとして自覚され
ねばならぬ。

なべて不満打撃と不尊重と
を怒鳴して来た田核派の怒
意的な「全日本闘争・オ三
次大學闘争」論は、又々政
治技術的なものでしかない
即ち、各大學に於る全日本
という名前のついた組織の
デッキ上げー全国全日本闘争
指導権獲得の為以上の何物
でもない。

當当局に認められていない。大學では、民主主義的運動やボツダム自治会運動で、非常に革命的な質を持つはずである。

2、「學生の全其闘なら、
労働者の全其闘へ」のスローガンにて、
「かくして國立大の復興につ
いて。

だが、田核派のオ三次大蔵は、開拓争論のころに、マニフェスト提出核派の日和見主義の癪能(せんのう)の為のそれとして機能(のうのう)している事を問題にせざるを得ない。

70頁の日本田核派の東北病棟闘争や三里塚闘争、又、京大新病棟闘争にみせた日和見主義の方針は、目をおおしたくなつたばかりである。

全般運動の総括(ふくわく)

3、全女闘の闘争形態、占
地、バリケードだけに固執
し、権力闘争の必要だけを
主張する傾向。

一)の傾向は、全女闘運動
よりも、より精力的に武器
を取り、さり空出した闘い
によるて、全女闘運動の階
層的底^トを突破せんとする
意欲に於て、評価できる。
だが、アカデミックや戦争アフ
ターケンダを学生大衆に煽動し
てもしたくなまい。要する

全其運動の成程を
詰つたので、本ハニエウイキ派

争である」と勧められる時、それは「革命的」堅苦方に終り、「保守的復古」を標榜するにはも大さく、諸政党が大衆に親しみながらの態が良々存る。在した間にして、既にその傾向は「愛憎不眞」として倍加して二つの。
にして、日本反対同盟が再編・強化され、露宣に日本フリーメイソンアーダー、復活、ななら、階級闘争に対する支持度は、反対を開始し、且ち、前より多くは政治的立場を明確化してゐる。

五 治の事由 五重を里遊して
てはる時、我々は、一の反
人民性を徹底的に暴露し、
闘争を組織する事を抜きに
して、全般闘運動以上の武
装、占拠、バーナー上は決
して実現されえまい。

4. 個人主義的・無政府主義的傾向について。

卷之三

に於る革命的左派の創成期
に於る限界、即ち、日本共
産党中央連フーラク、それ自
身反帝者階級の前進骨の
全世界の特に帝國主義国に
於る「ヌシニーテハ」・ハ
「一」の力を肯定するもの
である。

「ハセキハシの御用腰痛湯の
腰痛にむかひて腰痛つゝ
木一に、古く腰痛の
腰痛に治る物性の突出
の如韧性と云ふ鐵術を、永
遠に腰痛の腰痛に治る
事無事。

全人の事に及ぶる説理
講義は、學生共主義者としての學生運動の往々の趣旨と
しての學生運動の往々の趣旨と
出と二種なら行うならば、
運動に不充分である。
これは、明らかに、日本
の革命的左派の創成期
に於ける限界、即ち、日本只
に於ける限界・即ち、日本只
全世界の特に帝國主義國に
於ける「又ヨーロッパ」、以
上二つの力を否定するもの
が、或ひロシア革命
の運動に於ける運動、又最近では、
又中國革命に於ける「一九一九
年」の運動、1922年の中
國革命に於ける運動、又最近では、
又中國革命に於ける「又ヨーロッパ」、以
上二つの力を否定するもの

我々は、もともと、
各自の作業場所で、うなづ
しながら、
生産主義者たる精神した忠
誠的精祿を学び取らねばなら
らない。

だが、この事は、或ひ階
級闘争の發展局面で學生運
動の突出ならぬロレタリア
・ヘゲモニーへの移行とい
う戦術である。これを

永遠に固定化するといつ事
ではないのだ。

ヨニに、このるつむ學生
運動の戦術論は、暫く間し
か家庭で政治活動を経験す
るにしなざさないに学生活動
家を、無条件に讃美し、そ

の地位を固定化する傾向に
傾いてゐる。

従つて、全ての任務が、
「運動」ただけに
限定され、自己たる生産主
義者へと歸のあげる様々
な作業、将来的全人類的
な闘争を担い切らねばなら
ず不思議な能力を獲得

しなづく。

我々は、メロレタリアー
トの解放の頭脳であり、メ

ロレタリアーの後記

以下略

以下略

50回

ハーニーハウス通信
第一回
「甲政治活動研究会」とセクターの新
しい歩み
オーロラ出版社
「新しに開くの準備の、
これまで、誰も進む事
な出でる」のに感心である。
この上、論述通りには、最初、全日本運動の総括、以
て任務も含めて主張する
予定であった。

次回タボリ通話を併記
参考に下記を読む事である。

ホニエウス通信 第3号
発行日 1971.4.10
発行所 京都大学二年
額面 50 円
連絡先 京都市左京区東竹屋町
京都府警 771-6291
B棟307号